

卷 頭 言

允文允武に渡らせ給ふ。天皇陛下には十一月十日京都御所紫宸殿に於て御即位の大禮を御舉行遊ばされ神人膏悅アヒび天地感な春ならむとし宇内萬邦敢て慶せざるものはない。恭しく惟みるに御即位式は陛下が萬世一系の皇位を御繼承遊ばされ給ひたることを上は、皇祖皇宗に告げさせられ下は臣民一般に宣せらるゝ大典にして之に續いて行はせらるゝ大嘗祭は、天皇が御即位遊ばさるゝと同時に新穀を捧げて天祖及天地の神祇を祭らせられ國利民福天下太平を御祈り遊ばさるゝ最も尊き御式典である。

畏くも皇位繼承の御意義を拜察し奉るに神武天皇が積慶重暉養正の建國の三大綱によつて言説されたる人類完極の道であり復普遍安當の道であり且つ人生創造の根本動力たる建國の大理想を實現する所謂天業恢弘八紘一宇の大事業に御從事遊ばさるゝことを中外に對し無上尊嚴の宣揚であらせらるゝ此大理想に向つて君民一致單り我國のみならず汎く人類の共存同榮の爲めに努力することが我が國體の大精神である。御即位の當日給はりたる御勅語を拜讀するに

朕内ハ則チ教化ヲ醇厚ニシ愈民心ノ和會ヲ致シ益々國運ノ隆昌ヲ進メムコトヲ念ヒ外ハ則チ國交ヲ親善ニシ永ク世界ノ平和ヲ保チ人類ノ福祉ヲ益サンコトヲ冀フ

と仰せられたるに見ても明かの事である。我々は陛下が此の大事業を荷れて我日本の使命である人類共存同榮の大事業に御着手遊ばされたるに對し、協心戮力、夙夜淬礪以て大和民族の本領を發揮せねばならぬと深く感得すべきである。畏れ多くも陛下には

朕寡薄ヲ以テ黍ク遺緒ヲ嗣キ祖宗ノ擁護ト億兆ノ翼戴トニ頼リ以テ天職ヲ治メ墜スコト無ク愆ツコト無カラムコトヲ庶幾フ

と仰せられ復た

爾有衆共レ心ヲ協セカヲ戮セ私ヲ忘レ公ニ奉シ以テ朕カ志ヲ弼成シ朕ヲシテ祖宗作述ノ遺烈ヲ揚ケ以テ祖宗神靈ノ降鑒ニ對フルコトヲ得シメヨ

と仰せられた。實に恐懼の至りではないか。若し私慾のことを遠くして公に奉ずることを忘れ或は苟安を貪りて遠大の

計に及ばず、荒怠時を消し學を修めず、業を習はず、言信なく、行度なく、節操修らず、父母の恩を忘れ、社會國家の恩を忘れ、廣大なる君恩を忘れ、目前の小利我慾の衝動のみによりて活くるものありとせば昔に日本國民として面汚しのみならず人間として更に價値なきは勿論國賊と稱する價値もなきものにあらずや。人間の價値は義勇奉公の精神に燃ゆるところにあり、我慾に驅られ本能的生活にのみ活くるは動物的生存なり。孔子は言はれた。

母_レ慾_レ速、母_レ見_ニ小利_ニ慾_レ速_レ不_レ達。見_ニ小利_ニ則_レ大事_レ不_レ成。

と目前の小利に眩惑するものは決して大事の成就するものにあらず、彼の利巧の才子と稱するものには往々此の類の小人鳥的の輕蕩兒のあることを深く注意すべきである。

我が校生れて既に十八年を経過し約九百人に垂んとする卒業生を出だしたり、我校の同窓會も又十八星霜を経たる譯なり。九百の有爲の青年卒業生が同窓會の團結の下に聖旨を奉體し天業を翼戴し人類福祉の爲に人格的活動を發揮すれば其の國家民生の爲めに顯はすところの効果決して鮮みて止まらざるべきを信す、其の専門とする蠶絲業の發展興隆期して待つべきあるを信す。以て聖恩に膺ふることを得べく、以つて國家社會の恩に酬いることを得べく、以て父母の恩師の恩に對することを得べし。

凡そ機械の力には限りあるも精神力には圍り知るべからざるものあり。人が此の精神力を發揮したる時に始めて不思議な靈妙の大活動をなす。先哲老子の言に

慈_{ハルガニシテ}、故能_ク勇。儉_{ニシテ}、故能_ク廣。不_ニ取_ニ、故能_ク成器長。とあるが之れは自分の發憤努力によりて家を救ひ社界、國家

を救ひ進んで汎く人類を救はんとする此の大慈悲心の起るところに始めて大勇氣の奮起するものである自己の爲に計り自己に奉ずることを儉として始めて物質的にも精神的にも餘德を廣く及ぼすことが出来る。而して實力を充實することに努め漫りに出資婆らず。人を排し人を踏み臺にして先きんせんとすることを避くると、厭でも何でも自から人に推されて萬事の長となすと言ふのである。右は慈と儉と謙の三字に約することが出来る。老子は之を三寶と謂つてをる。同窓諸君吾我も人も皆此の德を養成蓄積すべきである。以つて昭和聖代の民として恥ぢず以て聖德を贊翼し奉り天業恢弘の大事業を弼成し奉らざるべからず。而して我が同窓の行くべき途は蠶絲紡績業の方面にあり人格的に進め只一片の技術手たるなからむと切望す。